

第 20 回福井県血液浄化談話会 プログラム

日時：令和 6年 4月 7日 (日) 13:00 より

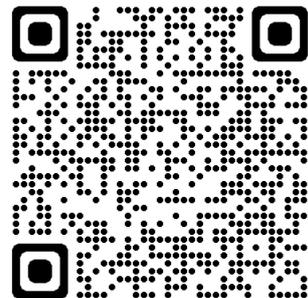
場所：福井県医師会館

福井市大願寺3丁目4番10号

TEL(0776) 24-0387

当番世話人 福井県済生会病院 上川 康貴

プログラムのダウンロード



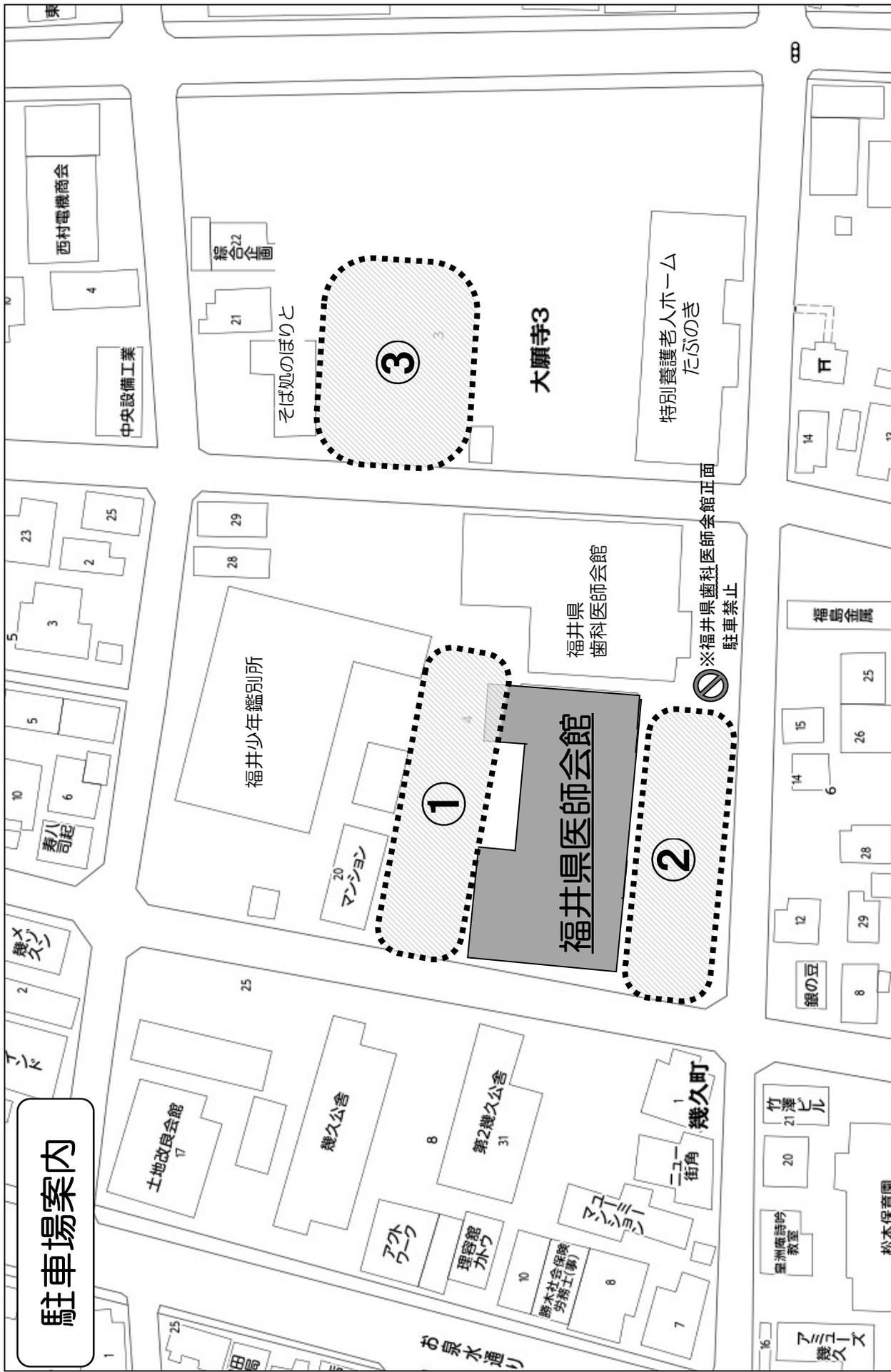
<駐車場について>

当日は多数の参加者が見込まれるため臨時で福井歯科専門学校の駐車場を使用させて頂くよう依頼しています。

福井県医師会館の駐車場①、②が満車の場合は、③福井歯科専門学校の駐車場に駐車いただきますよう宜しくお願いします。

※福井県歯科医師会館正面駐車場は駐車禁止となっておりますので、ご注意ください。

駐車場案内



- 駐車場 ① 福井県医師会館裏側 … 約 55台
- " ② 福井県医師会館表側 … 約 5台
- " ③ 福井歯科専門学校 … 約 60台

会場：福井県医師会館
 〒910-0001
 福井市大願寺3-4-10
 【TEL.0776-24-0387】

13:00~13:15

当番世話人 開会挨拶 福井県済生会病院 (上川 康貴)

代表世話人 挨拶 あすわクリニック (木藤 知佳志)

会計報告 福井大学 (糟野 健司)

13:15~13:45 【セッション 1】

座長 福井県済生会病院(加藤珠代)

01. 過酢酸洗浄剤サラティブ PA の使用検討

医療法人 広瀬病院

○塚原賢哉(つかはらけんや) 壇和宏 堀江豊徳

当院透析室は、多人数用透析装置 22 床、個人用透析装置 3 床の計 25 床である。当院では、昨年まで Ca 結晶除去目的で酢酸系洗浄剤を使用していたが、バイオフィルムや除鉄作用に対する洗浄効果を期待し、過酢酸系洗浄剤サラティブ PA に変更した。酢酸系洗浄剤から過酢酸系洗浄剤への変更に対し、多人数用患者装置の洗浄効果を検討し、現状を報告する。

02. 血液透析患者の COVID-19 ブレークスルー感染(BT 感染)の検討

藤田記念病院内科

○宮崎 良一(みやざき りょういち) 宮城 恭子 平山 崇

【対象と方法】観察期間は 2021 年 1 月 31 日~2023 年 11 月 30 日。COVID-19 mRNA ワクチンをワクチン 2 回以上接種後の BT 感染例について検討。【結果】BT 感染例は延べ 58 例で、2 回感染例は 7 例。男女比 43:15、原疾患の DM 非 DM 比 20:38。各例の中央値と(四分範囲)は、年齢 66.5 歳(59.0-75.0)、透析歴(月)87.3(30.3-127.3)、ワクチン接種回数 4.1(3-5)、最終ワクチン接種後からの日数 171(101-225)、感染直前抗 S 抗体(AU/mL)21,772(6,123-30,750)。【考察】当院の血液透析患者の約 29%が BT 感染を来しており、その成因として最終ワクチン接種からの日数経過と、COVID-19 の変異に対し、変異株対応ワクチン接種の遅れがあったと考察した。

03. Corynebacterium による感染性心内膜炎を来した血液透析例

福井県済生会病院内科

○榊山実(さかきやまみのる)、大倉清孝、堀麗菜、竹内一喬、相木孝允、丹羽智、三澤克史、前野孝治、五十嵐一彦、加藤珠代、上川康貴、平松浩志

75 歳女性。70 歳時に大動脈弁狭窄症に対して人工弁による弁置換術を施行した。X-2 月に内シャントが破裂し、対側にグラフト留置した。X 月 2 日より反応不良を認め、4 日に感染症として入院した。大動脈弁に疣腫を認め、血液培養にて Corynebacterium を検出し、感染性心内膜炎と診断した。手術治療を提案したが同意されず、抗菌薬投与を継続している。起因菌として稀であり既報を元に治療にあたったが、抗菌薬選択に難渋したため経過を含め報告する。

13:45~14:25 【セッション2】

座長 福井県済生会病院（上川康貴）

04. 内シャントや長期留置カテーテルの設置困難例において、左腋窩動脈に人工血管による動脈-動脈ループが作製された 1 例

福井県立病院 腎臓・膠原病内科

○荒木英雄(あらきひでお) 吉田美咲 横井靖二 片野健一
心臓血管外科 古山和憲 鷹合真太郎 西田聡

症例は 70 歳代女性。内シャント不全により多数の VAIVT やシャント手術歴がある。左右の腋窩静脈と大腿静脈に狭窄があり、左大腿静脈のテシオカテーテルは短期間で血流不全が生じた。再開通術は一時的であり、左腋窩動脈に、人工血管による Arterio-arterial prosthetic loop (AAPL) が作製された。人工血管を脱血側とし、テシオカテーテルを送血に用いて、良好な血液透析が可能となった。左腋窩動脈への AAPL は、内シャントや長期留置カテーテルの設置困難例において有用な方法であると考えられる。ただし、血栓症や仮性動脈瘤の合併症には注意が必要である。

05. HIF-PH 阻害剤服用中の当院血液透析患者におけるシャントトラブルの検討

藤田記念病院 内科

○宮城 恭子(みやぎ きょうこ) 平山 崇 宮崎 良一
同 医療機器安全管理室 堂前 翔太 大崎 謙次 宮澤 哲也 辻 真奈美 淡路 三男

当院の血液透析患者における HIF-PH 阻害剤使用中のシャントトラブルにつき検討した。2019 年 12 月以降 HIF-PH 阻害剤を使用した血液透析患者 40 症例中、シャント閉塞は 7 症例(VAIVT13 件)、閉塞時の平均 Hb10.6g/dl、1 ヶ月間の Hb 変化量 +0.2g/dl、フェリチン 74.6ng/ml であった。3 か月以内での複数回閉塞3例、シャント再建 2 例、2 例は閉塞を機に内服中止した。

06. 当クリニックにおけるバスキュラーアクセス管理の取り組み

はるそら内科クリニック

○武曾伴栄(むそうともえ) 鈴木量 大鐘邦裕

当クリニックではバスキュラーアクセスの閉塞などの合併症を回避するために5つの観点で取り組んでいる。①定期的なシャントエコーや人工血管の静的静脈圧測定を実施し狭窄の早期発見に努める。②体組成計や透析中のブラッドボリューム計のモニタリングなども指標とし適正な DW に設定する。③エコーを使用し穿刺ミスを減らす。④毎月カンファレンスを実施する。⑤シャントケアの患者指導。当クリニックの取り組みについて報告する。

07. 当院における過剰血流内シャントの評価

福井県済生会病院

○岸上 浩之(きしがみ ひろゆき) 長野 俊彦 小野 秀治 前川 岳也 川村
和輝 五十嵐 茂幸 上川 康貴 潮木 保幸 加藤 珠代 五十嵐 一彦

当院では 2014 年よりバスキュラーアクセス(VA)管理にエコーを取り入れ多面的な評価を行っている。超音波パルスドプラ法による血流量測定は狭窄や閉塞に対する血流低下のアセスメントだけでなく、過剰血流への定量的評価法として重要な指標となる。

今回、VA 管理の一環として取り組んでいる過剰血流内シャントへのエコーを用いた関わりと現状を紹介すると共に、血流抑制術に至った2症例での治療前後の血流評価について報告する。

【コーヒープレイク 14:25~14:45】



14:45~15:15 【セッション3】

座長 福井県済生会病院 (渡邊しげ美)

08. 褥瘡にペリケアを施して

医療法人 広瀬病院

○片山有佳 酒井昭子 笠島美津子 小原和代 堀江豊徳

当院は、長期療養型病床を有しており、血液透析患者の約 65%が入院患者であり多くの患者は ADL の低下した状態である。栄養状態や循環動態が悪く、踵部や仙骨部に褥瘡を形成した場合、患者の苦痛は大きい。今回踵部に褥瘡を形成した状態で転院された患者に対し、透析中にペリケアを実施したところ、褥瘡の改善傾向を認めたので、その要因を考察し報告する。

09. 透析患者の終末期に向けての取り組み

～家族・看取り医師との関わり～

鈴木クリニック

○横田久美子 高原千佳子 坂口健一 藤堂正子 石津恵美 藤澤日登美 鈴木亨

ふるさと往診クリニック 遠藤直樹

長寿園居宅介護支援事業所 酒井貴子

開院して 21 年合併症を伴い終末期へと向かう患者も少なくない。

透析自体が延命治療とされる中、患者の尊厳を守りつつ援助する難しさを痛感している。今回 2 つの症例を通して終末期患者の問題点と家族の関わりについて医療チームとしての役割を再考すると共に今後の課題や方向性が見いだせたので報告する。

10. 当院血液透析患者のアドバンス・ケア・プランニング(ACP)

藤田記念病院透析センター

○白崎 真由美(しらすき まゆみ) 加藤 紀美江 島田由子 村中 あい子 宮城 恭子
宮崎 良一

【目的】透析看護師が ACP と関わる上での患者支援について検討した。【対象・方法】面談期間 2023 年 7 月～2024 年 2 月当院透析患者に対し、面談希望患者とその家族に ACP 実施目的、病状説明と終末期医療の説明、事前指示書記載の希望の有無を聞いた。【結果・まとめ】面談で信頼関係を構築する第 1 歩にはなったが、面談時間 20 分で ACP 実践目的を全て達成することは出来なかった。

15:15～15:55 【セッション4】

座長 福井県立病院 (荒木英雄)

11. 入院患者における透析室の患者確認徹底の取り組み

福井大学医学部附属病院 血液浄化療法部

○川村みゆき(かわむら みゆき) 辻裏夏希 山岸友美 木下佳那 川上三千穂
長谷川章子 丹羽昭乃 齋藤里依子 岩崎光恵 森千里

A 病院透析室では、2023 年、自部署で発生した退室時の患者確認に関するオカレンスを受けて、患者確認の徹底に取り組んでいる。

退室時の患者確認の方法が統一されていなかったため、手順を作成し、患者確認の原則である、患者、病棟看護師、透析室看護師の 3 者で行う確認の周知徹底と検証を行った。また、「透析室オカレンス問題集」を独自に作成し手順の周知を繰り返し行った。これら透析室における患者確認徹底の取り組みを報告する。

12. 透析中の患者急変時対応訓練を実施して

～血液浄化療法室スタッフの対応能力向上をめざして～

福井県立病院 血液浄化療法室

○ 平沢直美(ひらさわ なおみ)

透析患者は高齢化し合併症を伴っているため重症化している。当院では透析中の患者急変事例が年間 3~4 件発生しているが、患者急変時対応のスタッフの不安や役割分担の不明瞭が明らかとなった。そこで訓練とチーム医療の推進が必要であると感じ、患者急変時対応訓練を行った。その結果、役割分担の明瞭化とチーム医療の連携強化が推進された。これにより医療と看護の質の向上が期待される。

13. 令和 6 年能登半島地震からみる自施設の初動体制の振り返り ～福井大学透析室の推移～

福井大学医学部附属病院 血液浄化療法部
○川上三千穂(かわかみ みちほ)

令和 6 年元日に起きた能登半島地震では、死亡者 241 名、安否不明者 9 名(2/21 現在)と甚大な被害が出ました。当院では、元日の勤務を終え、帰宅の途につこうとしたスタッフ達は、携帯の激しい通知で緊急事態と判断、すぐに透析室へ引き返しました。今回、日本 DMAT 隊員として発災直後からの 72 時間を振り返り、災害時の対応と今後の課題についてスタッフ間で振り返りを実施し、共有したので報告する。

14. 令和 6 年元旦の能登半島地震における福井県の対応

福井大学
○糟野健司(かすの けんじ) 岩野正之 遠山直志

福井県透析施設ネットワークでは SNS 等により全施設が地震後透析可能との情報共有が出来た。透析難民 360 名程度との情報を共有し、福井県内の各施設から日本透析医会 HP に受け入れ可能人数等の入力があった。翌日 19 名の受け入れ要請があるも、搬送不能のため全て中止になった。大規模災害時は県内連携が重要であることが分かった。福井県庁、DMAT からの情報が錯綜し混乱があったため、今後は情報共有の枠を広げる必要があると考えられた。

閉会挨拶 福井大学医学部附属病院 (遠山 直志)

【お知らせ】

1. 各参加者より参加者一人当たり 1,000 円を承ります。
受付にてお支払い下さい。
2. 本会に参加されますと日本透析医学会地方学術集会参加(5 単位)、日本透析医学会生涯教育プログラム受講単位(5 単位)及び慢性腎臓病療養指導看護師(CKDLN)の 3 ポイントが取得できます。
3. 発表時間は口演7分、討論3分を予定しています。発表者は時間を厳守して下さい。
4. 発表は原則としてプロジェクターにて行います。
発表者は当日開会 1 時間前までに USB フラッシュメモリー等を提出し、画面の流れを確認して下さい。その他、発表時間に影響を与えない限りにおいて、動画・アニメーションは許可致します。
5. 駐車場につきましては数に限りがございますので、当日はなるべく乗り合わせの上お越し下さい。なお、周辺パーキングに駐車された際の駐車料金は自己負担でお願い致します。
6. 2024 年度から企業広告費が得られなくなったため施設年会費1万円を別途、郵送にて請求します。各施設から談話会の口座にお振り込み下さい。